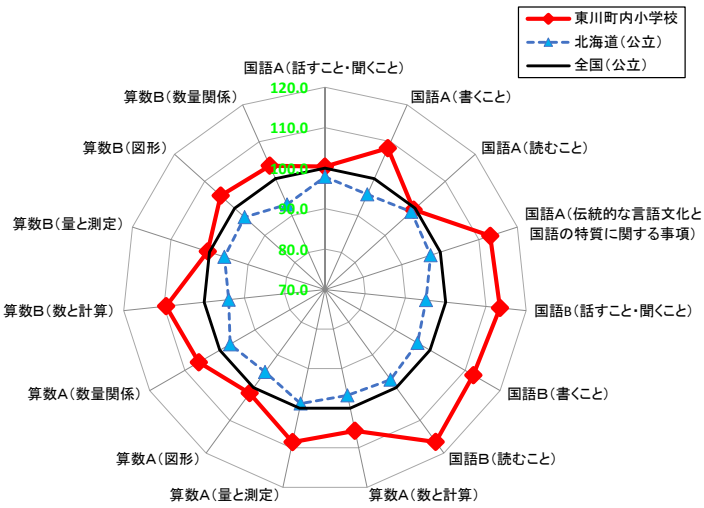
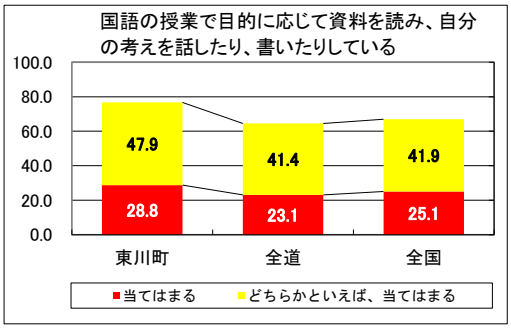
■東川町内小学校の状況及び学力向上策（学校数：4、児童数：73名）

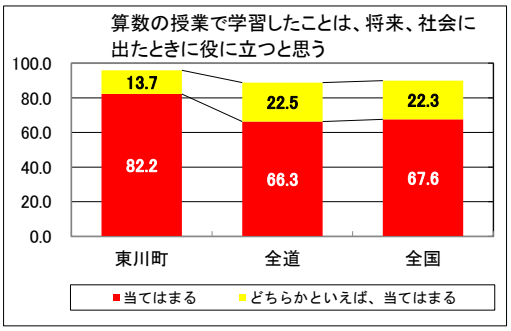
【教科全体の状況】

教科の領域別に全国を100とした場合の全道及び市町村の状況をレーダーチャートで示したもの
（市町村の平均正答率÷全国（公立）の平均正答率×100で算出）

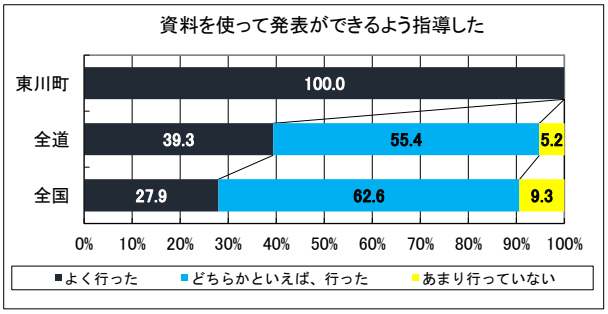


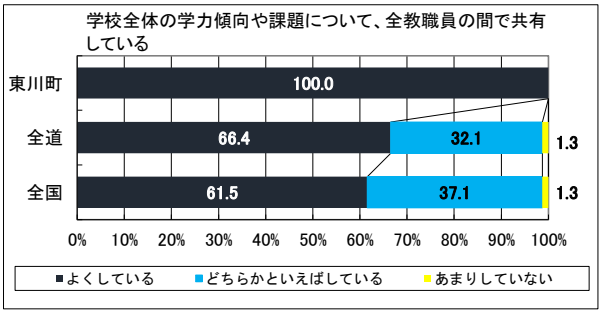
【児童質問紙調査】





【学校質問紙調査】





【分析】

教　　科	○ 国語Aでは、「話すこと・聞くこと」「書くこと」「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」、Bでは、すべての領域で、全国を上回っている。 ○ 算数A・Bでは、すべての領域で、全国を上回っている。	○ 国語Aでは、「話すこと・聞くこと」「書くこと」「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」、Bでは、すべての領域で、全国を上回ったことは、「国語の授業で目的に応じて資料を読み、自分の考えを話したり、書いたりしている」と回答した児童の割合が、全国を上回っていることが要因であると考えられる。
児童質問紙	○ 「国語の授業で目的に応じて資料を読み、自分の考えを話したり、書いたりしている」と回答した児童の割合が、全国を上回っている。 ○ 「算数の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思う」と回答した児童の割合が、全国を上回っている。	○ 算数A・Bのすべての領域で全国を上回ったことは、「算数の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思う」と回答した児童の割合が全国を上回っていることが要因であると考えられる。
学校質問紙	○ すべての学校が、「資料を使って発表ができるよう指導した」と回答している。 ○ すべての学校が、「学校全体の学力傾向や課題について、全教職員の間で共有している」と回答している。	○ 各学校において学力・学習改善プラン及びロードマップを作成するなど、学校全体の学力傾向や課題を踏まえ、児童に身に付けさせたい力を明確にしたことにより、授業改善が図られ、国語では6領域等、算数では、すべての領域で全国を上回ったと考えられる。

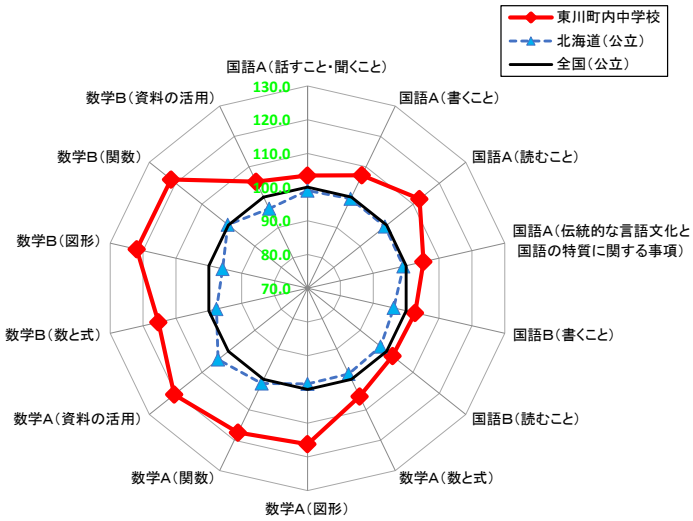
【東川町の学力向上策】

◎　学校・家庭・地域の連携及び「アクティブ・ラーニング」「協働学習」を取り入れた学力向上に向けた取組の充実
◎　基礎・基本の定着を図るための学習支援員等の活用による個に応じた指導の充実
◎　朝読書や読み聞かせ、各教科等における学校図書館の活用などの読書活動の推進

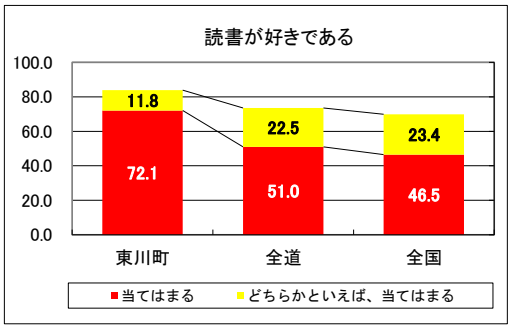
■東川町内中学校の状況及び学力向上策（学校数：1、生徒数：69名）

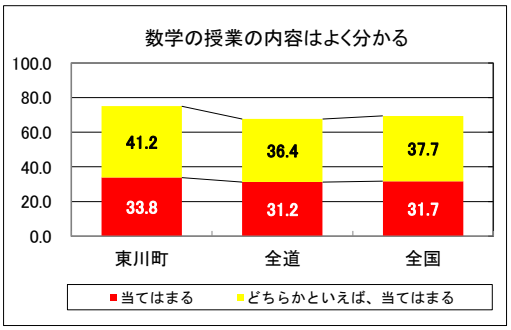
【教科全体の状況】

教科の領域別に全国を100とした場合の全道及び市町村の状況をレーダーチャートで示したもの
（市町村の平均正答率÷全国（公立）の平均正答率×100で算出）

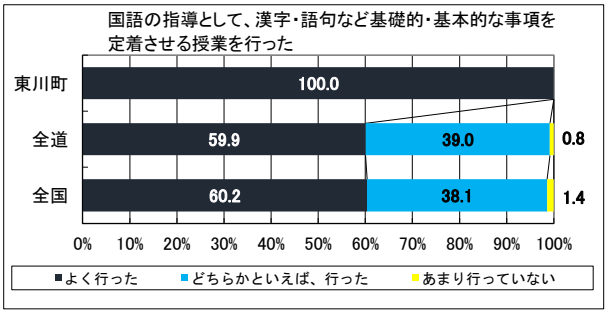


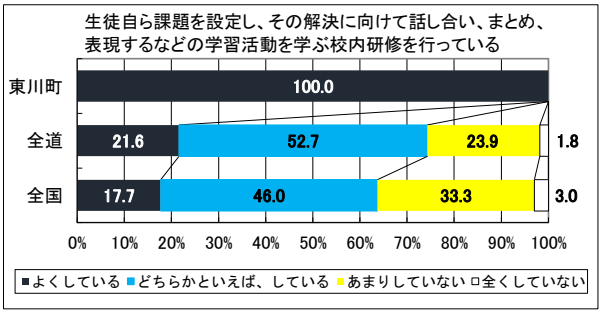
【生徒質問紙調査】





【学校質問紙調査】





【分析】

教　　科	○ 国語A・Bでは、すべての領域で、全国を上回っている。 ○ 数学A・Bでは、すべての領域で、全国及び全道を上回っている。	○ 朝読書や読み聞かせ、各教科等における学校図書館の活用などの読書活動の推進により、「読書が好きである」と回答した生徒の割合が、全国及び全道を上回ったと考えられる。
生徒質問紙	○ 「読書が好きである」と回答した生徒の割合が、全国及び全道を上回っている。 ○ 「数学の授業の内容はよく分かる」と回答した生徒の割合が、全国を上回っている。	○ 日常の授業改善につながる実践的な研修を行ったことにより、「数学の授業の内容はよく分かる」と回答した生徒の割合が、全国を上回り、数学A・Bのすべての領域において、全国及び全道を上回る成果として現れたと考えられる。
学校質問紙	○ 国語の指導として、漢字・語句など基礎的・基本的な事項を定着させる授業をよく行った。 ○ 生徒自ら学級やグループで課題を設定し、その解決に向けて話し合い、まとめ、表現するなどの学習活動を学ぶ校内研修をよく行っている。	○ 学習支援員等の配置による少人数指導や習熟の程度に応じた丁寧な個に応じた指導を行うなど、基礎的・基本的な内容の定着を図る指導を充実させたことにより、国語A及び数学Aのすべての領域で全国及び全道を上回ったと考えられる。

【東川町の学力向上策】

◎　学校・家庭・地域の連携及び「アクティブ・ラーニング」「協働学習」を取り入れた学力向上に向けた取組の充実
◎　基礎・基本の定着を図るための学習支援員等の活用による個に応じた指導の充実
◎　朝読書や読み聞かせ、各教科等における学校図書館の活用などの読書活動の推進